会議結果報告書

1　会議名	ごみ処理に関する課題についての意見交換会（みずき自治会）
2　日時	平成 30 年 7 月 21 日（土）14：00～15：00
3　場所	みずきコミュニティハウス
4　出席者	（資源循環課）原田副主査、小田副主査 （環境事業センター）林所長補佐、関原主査、田中技能労務統括主査 （みずき自治会）参加人数：13 人
5　内容	本市のごみ処理に関する課題について意見交換会を実施した。会議の主な質問と意見は次のとおりであった。 ●なぜごみを有料化にしたことで、先進市のごみの量は劇的に減少したのか。 →先進市は、燃やせるごみと燃やせないごみを有料化の対象とし、資源物は無料とした。資源物を燃やせるごみで捨てると有料となってしまうことで、市民の分別の意識が図られ、ごみの量が縮減したと考えられる。また、お金がかからないように水切りの徹底などの地道な努力をされているのも理由の一つと考えられる。 ●茅ヶ崎市が国や県よりもごみの経費が多くなっているのはなぜか。 →比較の目安としてお示ししているものであり、自治体の規模やごみ処理の方法、資源化の品目などでもごみ処理経費は変わってくるが、茅ヶ崎市が比較的高い理由としては、ごみ処理を直営で実施しているのが１つの理由となっている。 ●茅ヶ崎市が有料化を導入した場合、他市より多くの手数料を徴収する可能性はあるか。 →有料袋の単価は 1L あたり 2.0 円を設定している自治体が多いが、2.0 円は、ごみの減量化が進みやすい金額であり、なおかつ、何年か経った後でも意識が薄れない金額であり、市民に過度の負担とならない金額であると学識者の研究による見解が出ている。 有料化による手数料でごみ処理経費の３０億円全てを回収するのは不可能であり、一部の経費として計上させてもらうこととなるが、これ以上の金額は、市民に過度の負担であり現実的ではないと考える。 ●ごみ処理の状況に応じて、手数料がその都度変わることはないということでよいか。 →市民の皆さまからの手数料の徴収の方法は有料袋による徴収であるが、先進市を見ても頻繁にごみ袋の単価を変えていることはない。 ●戸別収集は、費用対効果が低いと思うがどう考えるか。 →戸別収集は各家庭をノックして訪問するのではなく、他市の事例では、公道と私有地の境界ぎりぎりの私有地側にごみを出していただいたものを職員が収集している。

	実施するには車両や人員が追加で必要となるため多くの経費がかかる。有料化を実施している鎌倉市と逗子市は、戸別収集にかかる経費が有料化を実施した歳入より上回ってしまうため戸別収集を実施ししなかったので、茅ヶ崎市としても十分に検討したい。 ●みずき地区の集積場所は市の土地であるが、戸別収集となった場合は使用しなくなるのか。 →藤沢市の事例だと戸別収集は全てのごみではなく一部のごみを対象としているので、茅ヶ崎市の場合も引き続き集積場所を使用することが考えられる。全てを戸別収集の対象とすると経費が更に上乗せされてしまうため、どこまでを対象とするかを検討したい。 ●道路をきれいにする美化活動を実施するが、有料化となった場合には、有料袋を使用しないといけないのか。 →先進市では、ボランティアごみや剪定枝、おむつなどの生活からやむを得ず出てしまうごみについては有料化の対象としていない。 ●寒川町はごみの有料化を既に実施しているのになぜデータに入っていないのか。 →市を対象とした。 ●分別が徹底できればごみ処理の仕組みは変わるが、ごみの有料化をしても最終処分場が確保できるという問題とは次元が違う。このためにお金が必要ですと市民に負担を求めるのはおかしい。 →最終処分場の灰の処理については今後検討する必要がある。灰をコンクリートに変えて土木工事に使用するなど資源化の方法はあるが、資源化は埋め立てるよりも経費がかかる。ごみの縮減は灰の縮減にも結びついてくるため、次元は違うが、経費の縮減に繋がると考えている。 ●段ボールを作るにしても、できる限り少ない量で作るように自治体からメーカーへの働きかけが必要なのではないか。 →市町村が集まる協議会において、国や県に意見できる場があるので、そこで今後も働きかけていきたい。 ●資源物が早い時間になくなっているのを確認するが、市内には資源物を持っていってしまう業者がいるのか。 ●資源物を出したらなくなるというのは持ち去りだと思う。住民がパトロールをするのは難しい。

	●集積場所がなくなるとコミュニティの希薄化が危惧されるとあるがそのようなことは全くない。 →一部の地域では課題として捉えているところがあるのでデメリットとしてお示しさせていただいた。 ●シュレッダーを通さないと個人情報が漏れてしまうというが、実際に漏れてしまうのか？シュレッダーを通さないほうが分別は早いと思う。 →シュレッダーをしていただいたほうがよい。 ●戸別収集となった場合、集合住宅はどうなるのか。 →先進市の場合は、対象を戸建てとしており集合住宅は対象外としているので、集合住宅のごみの出し方については今と変わらないと考えられる。 なお、現在実施している戸別収集のルートのシミュレーションにおいては、集合住宅についても漏れなく取れるような組み立て方をしている。 ●集合住宅が引き続き集積場所を使用するにしても有料袋を使用することになるが、それはしっかりと周知しなければいけないのではないか？不適正排出が発生すると思う。 →現在も不適正排出についてはシールを貼って対応しているが、同じ方法を取ると思われる。あまりにも長期間置いておくというのは地域に迷惑がかかるし、生ごみなどのにおいや害虫が発生するようなごみについては、長期置いておけないため期間については検討を行う。 ●商品プラスチックについても資源化を検討してほしい。 →資源化は経費がかかるため、環境面と費用対効果を検証して、効果的な品目を選択したい。 ●平成45年度で処分場がなくなってしまうのか。灰を資源化するとしてもごみはゼロになるわけではない。なくなってしまうのなら問題である。 →処分場がなくなるというわけではない。地元との約束で使用期間を45年度までとしているが、現在の埋め立ては44%程度で、残り15年でほぼ100%の見込みとなっている。市外での灰の埋め立てについては、市が出したごみの灰を他の市町村で埋め立てるということは望ましくないので再資源化を進めている。 藤沢市では、処分場があるが全て資源化をしている。茅ヶ崎市も全て再資源化としたいが、１ｔあたり4万から5万をかけて資源化をすることは費用対効果を考えると難しいと思われる。なお、灰は燃やしたごみ量の1／5程度なので、ごみの縮減を行うことは十分効果がある。

	●市民が減少すれば、ごみの見込み量も減少するが、現在の稼動施設では余剰がでるのではないか。 →粗大ごみ処理施設は平成37年度に新しい施設に建て替えを予定している。現在の施設は昭和52年に建設され、日あたり50ｔの処理能力であるが、新しい施設は日あたり28ｔでごみの量に併せた規模としている。焼却施設については、後15年使用するが、3炉120ｔで360ｔの処理能力となっている。茅ヶ崎市のごみの量は日あたり200ｔ強のため、建て替える時には、処理能力を日200ｔとするだとか2炉とするだとかで、規模に合わせた施設となる。 ●寒川町は有料化とごみの分別が進んでいた。茅ヶ崎市はもっと早く検討するべきであった。寒川町では、ごみ袋を買ってそこにごみをいれることとなっていたため、家庭の主婦としてとても気を使い、１袋で収めようと分別に努めていた。是非、茅ヶ崎市は有料化にしたほうが良いと思う。家庭の主婦に分別をもっと徹底してもらったほうがよい。 ●4R活動でどれを優先すれば効果が高いか？ →厨芥類と紙類とプラスチック製容器包装類をいかに減らすかが課題なので、まずは家庭で分別を徹底してもらい、野菜や食品で無駄なものを減らしてもらうことが市としてお願いしたい取り組みである。 以上